

新事業

清月記がウェディング事業に参入

5月1日、リア・フィューユを南町通りにオープン

地元葬祭業大手の榊清月記

(仙台市、菅原裕典社長)は、ウェディング事業「リア・フィューユ」を立ち上げ、5月1日からサービスを開始する。青葉区一番町、南町通り沿いグリーンウッド仙台一番町ビル1階に仙台ウェディングサロン「リア・フィューユ」をオープン、多様な結婚スタイルに対応、心に残るウェディングをサポートする。

同社の長期構想である「総

合サービス業」として、人々の人生に寄り添う企業であるために、結婚式も重要なキーワードとして位置づけていることから、ウェディング事業を始めたもの。

店名の「リア・フィューユ」は、「リア」はフランス語の「リアン」(つながり、絆)と「フィューユ」(葉)との造語で「フィューユを「愛」に見立て、たくさんの「愛」を重ね、人と人との強い絆を創ってほしいという願いを込めた。

今夏にはパーティースペースを併設

「リア・フィューユ」の主なサービスは、結婚式、披露宴のプロデュース。カップルのニーズに合わせたオリジナルのウェディングを企画、運営する。

阿部あきマネージャーは「若いカップル、シルバード、お子さまがいらっしゃる方などさまざまな状況に合わせてお客さまの目線でサポートいたします」と話

している。

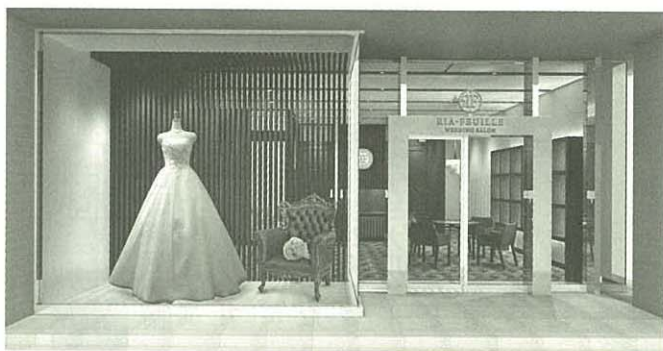
特徴としては、決まった会場を持たずにコンセプトに合う会場を選択可能、会場へのドレス等の持ち込み料金が発生しないため、自由なアイテムが持ち込める、ゼロから創り上げるオリジナル性だ。さらに自分たちの結婚式といえども、両家のつながりやゲストとの絆の大切さを伝えることも大切に「絆の再確認」を重要視している。

サロンは仙台中郵便局の向かい。地下鉄東西線青葉通り一番町駅から徒歩3分。広さは約66平方メートルで店内は茶系

の落ち着いた雰囲気です。打ち合わせができる。

今年夏にはパーティールームがでるスペースをサロン上の2階にオープンする。着席50名、立食90名対応可能で、個室を4室設け、新郎新婦、親族控え室として利用する。平日はフリースペースとしても活用したい考えだ。

昨今のブライダル事情は少子化による婚姻件数の減少に加え、経済的事情、授かり婚など、披露宴などを行わず婚姻届けだけで済ます「なし婚」が婚姻件数(年間約65万組)の約半数といわれ厳しい業界でもある。しかしながらこうした「なし婚」に至る理由を解消するプロデュースにより、新たな需要につながると同社ではみている。



「リア・フィューユ」の完成予想パース